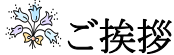


衛專聖友会だより

第9号 発行:

PL学園聖友会・衛生看護専門学校支部

平成28年7月10日



ご挨拶

衛專聖友会会長 中川早苗 (3期)

本年は衛專開校40周年です。開校当時の諸先生方のご苦勞、1.2期生の様々な武勇談(?)、以前の校舎での授業等、懐かしく思い出します。歴代の校長先生をはじめ、教職員の皆様方、実習病院での諸先輩方、たくさんの方々のお力に支えられ、何よりおしえおやさまの遂断の中で、母校が40周年を迎えられましたことを心から感謝いたします。今後も衛專ならではの教育を受けた素晴らしいナースの誕生を、皆様と共に応援していきたいと存じます。裏面に教務の先生方のインタビュー記事を掲載しております。どうぞご覧ください。

祝37期生 祝ご卒業

平成28年3月6日衛專校舎にて、第37期生、26名の卒業式が挙行されました。一人一人に卒業証書が授与され希望に満ちた表情が印象的でした。新しい衛專聖友会のお仲間のご活躍を心からお祈りいたします!



里帰り研修会報告

平成27年8月8日(土)に衛專・学生ホールにて、衛專教員の皆さまにより、第3回里帰り研修が実施されました。(詳細は衛專HPをご覧ください)新しい環境での、近況や困ったことなどを語り合い、楽しく貴重な時間を過ごされました。今年度の開催は平成28年8月6日(土)に予定されています。

定期活動報告会開催のお知らせ

本年は3年に1度の定期活動報告会開催年となります。下記のように、研修会と併せ、報告会を開催いたしますので、多数のご参加をお願いいたします。詳細は後日ご連絡いたします。

～衛專聖友会・定期活動報告会～

- ・平成28年11月11日(金) 17時15分～20時
- ・PL病院講堂にて
- ・予定行事
 - ① 定期活動会(総会・研修会)
 - ② 幹事会 定期活動会のあとに開催予定
 - ③ 交流会 隣のカフェにて軽食準備致します。



住所変更等の連絡のお願い

広報紙発行に関し、毎年多くの住所・氏名変更の未届けによる返却数の増加に大変苦慮しております。皆様からの活動費を大切に使用させて頂くためにも、お手数ですが、変更時には以下の2つのいずれかでのご連絡をお願いいたします。

1. 各期幹事様に連絡。
2. PL学園聖友会HPから、変更連絡。

<http://www.pl-seiyukai.com/contact/reg>



お元気ですか?

卒業生紹介

26期生 鈴木 楓さん

26期卒業の鈴木楓です。首都ブロック町田教会に所属しています。衛專卒業後はPL病院に8年勤め、その後は神奈川県相模原市内にある総合病院で勤務をしています。

現在はNICU病棟に配属され3年が経ちました。

以前より希望していたNICUでの仕事が出来、楽しくも充実した日々を送ることができています。現在は、ファミリーセンタードケアが行える病棟にしたい、赤ちゃんに優しい環境を作りたいと思い日々過ごしています。取り組みとして大学病院へ研修に行き、自部署でも取り入れられるように活動している最中です。また後輩育成にも力を入れ、病棟全体で取り組んでいます。赤ちゃんに優しい環境、家族が赤ちゃんのケアに参加できるNICUになるようにこれからも努力していきたいと思っています。

首都ブロックに移動してから聖友会の諸先輩方と交流させて頂ける機会が増え、色々なことを学ぶことができて感謝しています。



PL学園60周年記念行事ご報告

PL学園は昨年、創立60周年を迎え、11月7日に盛大に記念式典・行事が行われました。

元校長・故土井悟先生の著書『みんな立派に育て』をご遺族のご厚意により参加者全員に記念品として贈呈させていただきました。衛專聖友会では配布の献身と共に玄関ホールにて先生を偲び、著書をご紹介するブースを設け、たくさんの方にご覧頂きました。

「おかえりなさい先輩」のコーナーでは13期・山本幸子さんが看護師としての体験を現役高校生にお話ししました。他に健康チェックコーナー、救護所を担当いたしました。





～ インタビュー対談 ～

『学生との関わりで思うこと・・・』

お話を聞きした先生方

PL学園衛生看護専門学校教務部長 中村克恵先生
教務主任 長澤明子先生
教務副主任 井上豊子先生

***先生方の自己紹介、看護学校の教員になられた動機など教えてください。**

中村先生（以後敬称略）：7年の臨床を経て、ずっと教員の仕事をしてきました。今年で衛専に赴任し8年が経ちます。平成28年4月より教務部長に就任しました。まだまだこれからですが、意欲をもって頑張る決意です。

長澤：PL病院に助産師として勤務していた平成9年に衛専よりお誘いがあり、それから19年経ちます。人生、巡りあわせかなって気がしています。



井上：PL病院で20数年間勤務し、学生を受ける側にいました。受けるより育てる側に関心を持ち、平成9年に衛専へ赴任しました。学生から教えてもらうことが沢山あり、自分が学生に育ててもらっているというのが今の率直な思いです。

***現代学生の傾向、指導方法等で工夫されていることはありますか。看護教育において目指す所、看護教育観などありましたら、教えてください。**

中村：10年ぐらい前に比べると、目立つことや争いことを避ける学生が多いように思います。自身が色々感じると思うことがあるにもかかわらず、それを適切に表現できない学生が多く、これも現代の若者の傾向かなと思います。

自己表現力が乏しいためか、教務や友達、指導者、患者とのコミュニケーションでつまづくように思います。また人間関係の中で意見をぶつける方法を知らないため、一度ぶつかりあうと容易に修正できないほどの結果を招くこともあるようにみえます。相手と深く向き合うことをさけたり、相手の気持ちを「察する」ことが少ないようにも思います。そのため、教員がクラスの中に入り学友と仲良く話し、しっかりとやり取りをする機会を設けたり、グループワークなどを授業に取り入れ、人間関係の形成や自己表現力を育成する指導を行っています。実際は実習で表現することの必要性を実感し、2年生になってやっと自己表現力が身につくように感じます。4年制の看護大学が数多く設立されるなか、専門学校の3年間で基礎知識と看護専門知識を、このような学生達にどう教育し関わっていくのか、今後の大きな課題ともいえます。

井上：私は「誠実」ということを一番大切にして、教育に関わってきました。医療職につく人は嘘をついてはいけないと指導しています。

長澤：衛専生は「人のお世話をしたい、お役に立ちたい、本当に看護師になりたい」と思って入学していると感じます。最近は優しい学生が多く、優しさのあまり厳しくできないという弱みもあるように思います。学生は看護師になるために大変な道のりを歩まなければならない、辛

さのあまりに悩み苦しむことも多いです。逃げたくなった時、その思いが本気なのかボヤキなのか、よく話を聞くようにしています。ボヤキであることに気づけば、また明日からの実習や授業に立ち戻っていくことができます。他には「ありがとう・ごめんなさい」が言える人に育てたいと思っています。この2つの言葉は人間関係において大切なことだと思います。

***日々の看護教育中で、感動したこと、嬉しかったことはありますか。**

井上：先日、卒業生から「在学中に先生が言われていた意味が、10年経ってやっとわかりました。」と電話をもらいました。月日を経て、このような言葉を聞いたことが大変嬉しかったですね。教育って長い目でみていくことが大切だなあと感じました。

***卒業生へ、お願いや一言ありましたらどうぞ。**

中村：毎年の里帰り研修を支援していただき、聖友会の皆様にはお礼を申し上げます。本当に生き生きした目をして「先生！！」と帰ってきます。就職後3か月目という少し大変になってきた時期に、母校に帰ることで「みんな同じことで悩んでいるんだ。」と刺激や勇気を貰い、また各々の現場に戻っていきます。1年目の離職への歯止めにもなり、良い研修をさせてもらっていると感じています。

井上：母校に帰ることは「母港に帰る」ともいえると思います。それは港に戻って燃料を補給し、また航海に出ていくことだと、卒業生に説明しています。



***これからも、卒業生と在校生の港である母港「衛専」を中心に、つながりを絶やさず、協力させていただきたいと思います。本日はお忙しい中、お時間をとっていただきありがとうございました。**



退職のお知らせ

長く教務部長として教鞭をとっていただき、私たちを看護の道へ導いてくださった前田孝子先生が平成28年3月25日に退職されました。厳しくも温かいご指導をありがとうございました。卒業生一同心から感謝申し上げます。



《編集後記》

今回初めて、対談という形式で、「学生との関わりで思うこと・・・」を掲載しました。頂いたお言葉を文字に起こすという、貴重な経験をさせていただきました。ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。